

研究室だより

本棚や机の上に所狭しと本や資料の積み上げられた当中嶋研究室には、相変わらず向学心に燃える学生の出入りが（時には他大学からも）盛んで、夕方四号館を見上げると常にかあかかと電燈がともっているのがこの四三〇七号室です。

さて一九八〇年代を迎え、中嶋先生にはますます活発な研究活動を展開しておられますが、ここにその一端を紹介いたします。

まず、積年の研究成果『中ソ対立と現代——戦後アジアの再考察——』にたいし、六月十七日付で、東京大学より社会学博士の学位を授与されました。これは東大での国際関係論の学位であります、わが国でも珍しい学位なので、その説明に苦慮していらっしや

るご様子です。

同月中下旬には、研究室の井尻秀憲さんを伴って、中国の都市行政調査のために訪中。文革期以来、四度目の中国でありましたが、収穫も多く、『中央公論』（一九八〇年十月号）誌上に「中国よ、今こそ文化大革命を」と題して訪中後感を執筆されました。これは『世界』六月号の論文「『新しい冷戦』の国際学」とともに、本年の代表的論文であります。

さらに十一月には、十二年の歳月を費やした懸案のお仕事、彭述之『失われた中国革命』が、先生の編訳で新評論から刊行されました。八十五歳になる病床の彭述之（中国共産党の創立当時の指導者）のもとに届けられてきて、「本当によかった。」とのことです。同じ十一月には、書き下しの『新冷戦の時代』（TBSブリタニカハブックス80V）も刊行され、海外出張の直前にその見本刷りをご覧になって出発されました。

今回の先生の海外出張は十一月中旬以来年一月中旬にかけての二ヶ月のご予定です。ま

後、その翌々日にはワシントンでのジョージ・ワシントン大学主催の日本外交にかんするセミナーに参加、日本の対中・対ソ外交について報告をなされています。そして十一月下旬からはパリに滞在、来年一月中旬までフランス国立政治学財団国際関係研究センターで、わが国で初めての現代中国にかんする日仏共同研究に携わられたら、国立パリ政治学大学院客員教授を兼任されます。

また去る十一月八〜九日には、第三四回アジア政経学会全国大会が本学でおこなわれ、当中嶋研究室が事務局となり、ゼミの学生および大学院生が大会の設営その他に大奮闘。共通論題の「『地域研究』の新しい展開」は、一同にとっても刺激的なテーマでありました。

さて現在研究室の留守を守り、我々学生をいつも暖かく迎えてくださるのが、新任の教務補佐員の川崎真由美さんです。三月に出産のため退職された岡崎久美子さんの後を継がれた川崎さんは、釜石のご出身でそのショックな身だしなみは皆の注目を集めています。

(C・N)

「中嶋ゼミの会」のページ

『歴史と未来』も今回で第七号、いささか風格のようなものを備えてきたと思うのは一人よがりでしょうか。発行の喜びと重荷のほろほろにまみれながらも、会員の皆さんがこの雑誌を手にして嬉んでおられる姿を想像すると何故かハッスルしてしまったというところ

です。さて例年のようにこの紙面をおかりして今年度ゼミの会の活動報告をさせて頂きたいと思

います。まず総会を兼ねた春の研修旅行が三月二十二〜二十三日那須において行なわれました。あ

ッションなど活発に行なわれました。なおこの時の総会で今年度の役員が決定されました。五月三〇日、ペンシルバニア大学のバレスチャン教授の講演会をアメリカン・センターと共催しました。「アジアの四ヶ国関係とアメリカの政策」というテーマはタイムリーであり、学生多数の参加を得ました。

六月二十八日にはゼミの会主催でポーリング大会を行いました。優勝者は言うのもはざかしいロー・スコア。今度は景品を出せないのでの声もありましたが、最低速度制限ならぬ最低スコア制限をもうけるとはゼミの会の会

計に詳しい人の弁。夏合宿は長野県梅池高原で七月十八〜二十日に行なわれました。合宿では「アジア・太平洋地域の中の日本」というテーマでゼミナールを開催。報告者からはオーストラリアとフィリピンの留学生に中心になってもらったこともあり、いつもとは一味違う報告や意見が出ていたようです。相変わらず夜に強い会員たちの部屋からは、一晩中、ゲームに興じる声が聞えていました。

秋の深まった十一月八日、九日の両日「ア

ジア政経学会全国大会」が外語大で開催され、ゼミの会員を中心に大会準備・進行のお手伝いをしました。九日、学会終了後、池袋のバブで打ち上げをしました。話がはずみ結局終電間際になって解散。翌日、前夜の自分の行動を覚えていなかった人が数名いたという

わざも耳にしました。次に会員の方々の異動と消息についてお知らせします。

まず留学された方ですが、藤田美代子さん（イタリア語科50年度卒）がアメリカのユタ大学へ、また井尻秀憲さん（中国語科49年度卒）が同じアメリカのカリフォルニア大学バークレー校にそれぞれ留学されました。以前、教務補佐をされていた伊豆見元さんも三月韓国へ二年間の予定で留学され、また、日本経済新聞社勤務の勝又美智雄さん（英米語科46年度卒）も十二月アメリカのスタンフォード大学へ半年間留学される予定だそうです。東京銀行の川副泰治さん（中国語科49年度卒）は北京での留学生生活を終えられ一年ぶりに帰国されました。

またドイツのブロックマイヤー大学で勉強